



片平キャンパス 記念碑・保存樹木

1907(明治40)年に東北帝国大学が創設された本学発祥の地である片平キャンパスには、東北大学の記念碑だけでなく、東北大学の前身である東北帝国大学、仙台医学専門学校、第二高等学校、仙台高等工業学校、宮城県女子専門学校などの多くの記念碑が残されています。また、古くから学術エリアとして利用されてきたことから、仙台市の保存樹木や歴史的意味のある並木・樹木が多く、都市の中のキャンパスでありながら緑豊かな景観・環境を維持しており、学内のみならず広く市民に開かれた憩いの場として活用されています。

① 魯迅先生像→
明治39(1906)年まで仙台医学専門学校で学んだ「近代中国の父」といわれる文豪魯迅の像。多くの観光客が訪れ、写真撮影スポットになっています。



② 仙台医学専門学校跡の碑→
明治34(1901)年に創設され、魯迅も学んだ仙台医学専門学校の記念碑。明治45(1912)年に東北帝国大学に包摂され医学専門部となり、その後東北帝国大学医科大学が設置されました。



③ 宮城県女子専門学校の碑→
大正15(1926)年に創設された宮城県女子専門学校の記念碑。日本の公立では3番目の女子専門学校として設立。学制改革で東北大学に併合され、農学部家政学科となりました(生活科学科と改称後、昭和35(1960)年廃止)。



④ 第二高等学校校門・記念碑→
明治20(1887)年創設の旧制第二高等学校(大正8(1919)年～第二高等学校)の煉瓦造りの校門と記念碑。校門は市内各地に移転後、当初の位置に再配置されました。(登録有形文化財)



⑤ 法文学部発祥の地の碑→
大正11(1922)年に東北帝国大学唯一の文科系学部として設置された法文学部の記念碑。大正15(1926)年に起工、昭和2(1927)年に完成した旧法文学部第二研究室は、現在も会計大学院研究棟として活用されています。



⑥ 仙台高等工業学校跡記念碑↓
明治39(1906)年に創設された仙台高等工業学校跡の記念碑。明治45(1912)年に東北帝国大学に包摂されたが大正10(1921)年に再び分離独立。学制改革で工学部の母体になりました。



⑦ 光通信発祥の地石碑↓
元東北大学総長の西澤潤一博士による光通信関連の先駆的な技術の研究・開発の業績を讃えて、元スタンレー電気社長の手島透氏によって建てられた石碑。



⑩ 黒松並木と枝垂桜→
北門からの南北の通りは元禄のころから桜小路と呼ばれてきました。この通り沿いの黒松並木は第七代東北帝国大学総長熊谷俊蔵博士が昭和15年に亙理郡浜吉田付近から移植したものです。また枝垂桜は慶応元(1865)年仙台に移住した鑄物師東海林嘉吉により寄進されたものの一部です。



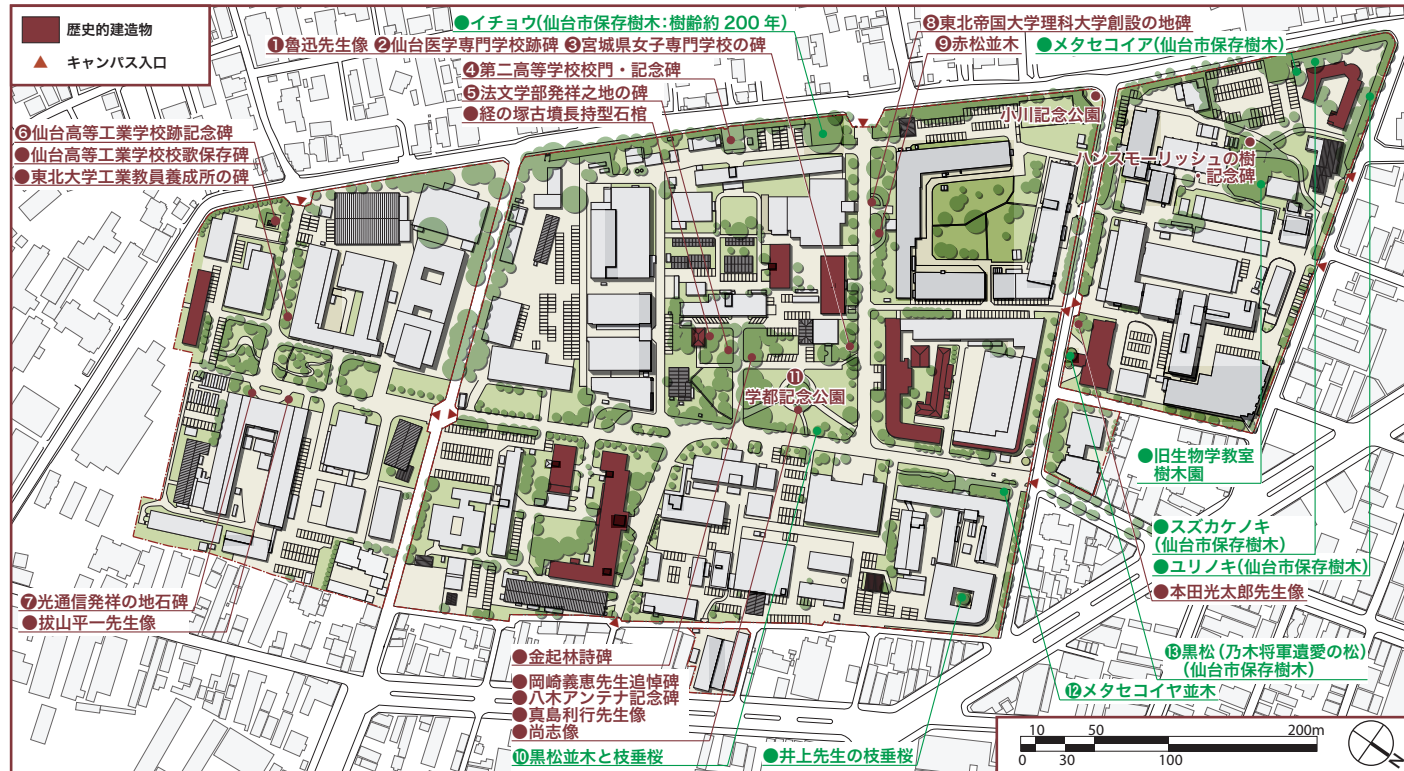
⑪ 学都記念公園→
旧制第二高等学校の校庭であった中央の広場は、普段は近隣の市民や保育園児の散歩コースとして、また春には桜の下、多くの花見で賑わいます。今後さらに魅力的な開かれた広場として整備する計画です。



⑫ メタセコイア並木→
東北大学名誉教授西澤恭助博士の退官を記念して昭和31(1956)年に植えられました。メタセコイアは「生きた化石」として昭和20(1945)年に中国四川省で見発見されました。この並木は昭和25(1950)年アメリカで育て日本に送られた苗の原株から挿木として育てられたもので、北門周辺の景観を緑豊かにしています。



⑬ 黒松(乃木將軍遺愛の松)→
仙台市の保存樹木の樹齢約200年の黒松。木の下には石碑があり「乃木將軍遺愛の松/本多光太郎謹書」とあります。この辺りは乃木將軍の陸軍第二師団長時代の官舎があった所で、本多光太郎先生在職25周年記念事業のために買収した土地に、老松のある官舎であった土地も含まれておりその松を本多先生が惜しまれたのだと思われます。



⑧ 東北帝国大学理科大学創設の地碑↓
明治44(1911)年設立の東北帝国大学理科大学の記念碑。大正2(1913)年には東北帝国大・理科大学の開学式が片平で盛大に行われました。式典・祝宴・記念講演などが催され、その後5日間にわたり学内を一般公開。多くの市民が、真新しい校舎や珍しい実験器具・標本類を見学しました。



⑨ 赤松並木とエクステンション教育研究棟↓
法文学部と共に整備された赤松の並木と仙台城を向く正門からの軸線上のアイストップとなるエクステンション教育研究棟の塔のロゴマークが片平キャンパスのシンボリックな空間を作り出しています。

